

1. 件名：「日本原燃(株)再処理施設、MOX施設の設工認に関する面談」

2. 日時：令和4年8月25日(木) 15時00分～17時00分

3. 場所：原子力規制庁 10階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

核燃料施設審査部門

(原子力規制部新基準適合性審査チーム)

長谷川安全規制管理官、古作企画調査官、清水係員

日本原燃株式会社

決得 執行役員 再処理事業部副事業部長(設工認総括、新基準設計)

5. 要旨

○日本原燃株式会社(以下「日本原燃」という。)決得執行役員から、再処理施設、MOX施設の設計及び工事の計画の認可(以下「設工認」という。)申請に関する審査の対応状況等について、以下のとおり説明があった。

- 日本原燃に赴任して2ヶ月ほど経過し、日本原燃の良い点、悪い点、改善すべき点が少しずつ見えてきた。これらを踏まえ、今後の申請、審査に当たって、いかに効率的に進められるかを検討しているところ。
- 自分なりにいろいろ考えているところであるが、これまで多くの支援があったにも関わらず、未だ審査がスムーズに進んでいないなど、改革は難しいと考えている。
- 今後、効率的に進めるために行政相談をしつつ、計画的に進むようにしていきたい。

○原子力規制庁(以下「規制庁」という。)から、主に以下の点を伝えた。

- 日本原燃に対してはこれまでも同じ話をしているが、規制庁の話をキャッチアップできておらず、効率的に審査が進まない。
- 日本原燃においては、全体シナリオを描いた上で、体系的かつ論理的に説明することが重要であるが、これまでの審査ではそれができていないため、抜本的な改善、改革が必要である。特に設工認審査においては、許可に立ち返って、設計対象に係る設計条件を適切に整理することが必要であるが、これまでの審査ではその部分が中途半端な印象がある。一つ一つ丁寧に読み解くことが肝要。
- お互いに無駄な業務を省き効率的に審査が進められるよう、必要な行政相談は対応する。

○日本原燃から、本日の面談を踏まえ対応する旨の回答があった。

6. その他
なし